

三六災害50年実行委員会

設立趣意書

昭和36年6月、伊那谷を襲った集中豪雨は、伊那谷の各所で堤防の決壊、土石流、がけ崩れ等を引き起こし、日本の災害史上に残る大惨事となりました。あの大惨事から年月が流れ、来年6月で50年を迎えます。

伊那谷では、この50年間、河川の改修、砂防・地すべり対策、治山対策、交通網の整備及び防災情報施設の整備がなされ、めざましく発展し、大変住みやすい地域となりました。

しかし、一方で、災害に対する危機意識が年々薄れつつあるのも事実です。また、近年では、異常気象等に起因する集中豪雨や局地的な大雨が、日本の各所で観測されており、地形が急峻で地質が脆弱な伊那谷においても、そのような大雨に見舞われ、大洪水や大規模な土砂災害が起こる危険性は依然として大きいと言えます。

この50年の節目を契機として、忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識すると共に、教訓として後世に継承し、地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指し、伊那谷の未来を考える取組を行う必要があります。

このため、関係機関が情報を共有し、積極的に啓発活動を実施するための「三六災害50年実行委員会」を設置するものです。